

特別展

いざリアル三国志へ参らん

日中文化交流協定締結40周年記念

三国志



関羽像 ① 青銅 明時代・15~16世紀 新郷市博物館蔵

引き締まった精悍な体つき、甲冑の細やかな装飾や良好な鑄上げりなど、伝世する関羽像のなかでも屈指の優品である。

THE THREE KINGDOMS UNVEILING THE STORY

2019年7.9(火) - 9.16(月・祝)

開館時間：午前9時30分～午後5時 ※金曜・土曜は午後9時まで ※入館は閉館の30分前まで
休館日：月曜日、7/16(火) ※ただし7/15(月・祝)、8/12(月・休)、9/16(月・祝)は開館

TNM 東京国立博物館 [平成館] 上野公園
TOKYO NATIONAL MUSEUM (Ueno Park)

観覧料(税込)	当日券	前売券	団体券
一般	1,600円	1,400円	1,300円
大学生	1,200円	1,000円	900円
高校生	900円	700円	600円

※中学生以下無料 ※団体は20名以上 ※障がい者とその介護者1名は無料(入館の際に障がい者手帳などをご提示ください) ※前売券は4月9日(火)から7月8日(月)までの間、東京国立博物館正門チケット売場(窓口、開館日のみ、閉館日の30分前まで)、展覧会公式サイト、各種プレイガイドにて販売。

3枚つづりで**3,594円**(税込)
お得な早割前売券を3月9日(土)発売!
詳しくは公式サイトで。

主催：東京国立博物館、中国文物交流中心、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社 後援：外務省、中国国家文物局、中国大使館
協賛：大日本印刷、三井物産 協力：コーエーテクモゲームス お問合せ：03-5777-8600(ハローダイヤル)

公式Twitter | @sangokushi2019 #これぞリアル三国志 | 公式サイト | <https://sangokushi2019.exhibit.jp/>

2019年10月1日(火)~2020年1月5日(日)、九州国立博物館でも開催!

三国志

開催趣旨

前後400年あまり続いた漢王朝は、外戚や宦官が実権を握るなかで徐々に力を失い、社会秩序は混乱をきたすようになりました。そうしたなか、太平道や五斗米道といった道教集団が民衆の心をとりえて立ち上がり、黄巾の乱(184年)が勃発するなど世情は大いに乱れました。動乱の收拾をはかる漢王朝は、有力諸將の力を頼みとしました。しかし、これがかえって彼らの台頭をゆるし、華北では曹操が立ち、長江上流地域の四川平原では劉備が政権をにぎり、南の長江下流域では江南の地に孫堅・孫権父子が自立し、ここに魏・蜀・呉の天下三分の形勢が定まりました。こうして三国時代(220~280年)が幕を開けたのです。

魏・蜀・呉の動向は、正史『三国志』や小説『三国志演義』に著され、長く人々の親しむところとなりました。そして21世紀に入り、曹操高陵の発掘など重要な考古学成果が相次いだことで、三国志研究は新たな局面を迎えることになりました。実物資料をもとに、三国志の世界を再構築する時代が到来したのです。

本展では、日本でも人気の高い三国志について、選りすぐりの文物と最新の研究成果をまじえてその実像に迫り、これまでの三国志を超えた考古学ならではの、新たな三国志像の構築を目指します。



関羽・張飛像 ② 土、彩色 清時代・19世紀 天津博物館蔵

展覧会のみどころ

① 必見!

三国志研究史上、最大の発見で、海外初出品となる河南省の曹操高陵出土品や、呉の皇族クラスの墓と目される江蘇省の上坊1号墓など、最新の発掘成果が目白押し! 三国志の実像に迫ります。

② 潜入!

2009年、河南省安陽市で曹操を葬った墓―曹操高陵発見。そのしらせは国内外の学者たちの注目を集め、現在も調査研究が続いています。本展では、この曹操高陵の実像に迫ります。ご期待ください!

③ 競演!

小説やマンガ、ゲーム、人形劇など幅広いジャンルで世代を超えて親しまれている三国志。本展覧会では、さまざまな三国志との夢のコラボレーションを企画。詳しくは公式サイトで順次紹介いたします。



上坊1号墓(江蘇省南京市) 提供:南京市博物館



曹操高陵(河南省安陽市)



赤壁(湖北省赤壁市)

プロローグ 伝説のなかの三国志

およそ1800年前、後漢王朝の混乱に端を発した三国志の時代は、幾多の武将の栄枯盛衰とともに記録され、のちには歴史性を帯びた伝説となって普及した。伝説は人々の親しむところとなってそこから詩文や絵画が生まれ、また関羽のように尊崇を集め神格化される武将もいた。今につながる多彩な「三国志文化」はこうして育まれていった。



関帝廟壁画 「張飛、督郵を鞭打つ」③

土、彩色 清時代、18世紀
2010年、内蒙古自治区フホト市水門塔伏龍寺内蒙古博物院蔵

私利私欲にまみれた役人・督郵に張飛の怒りが爆発。『三国志演義』の有名な一幕を鮮やかな色彩で描く本作は、関帝廟の堂内壁画に描かれていたもの。



(部分)

あの英傑、あの武将、あの戦いにまつわる文物が目の前に――



趙雲、駆ける!

趙雲像④

木 清時代、17~18世紀
安徽省亳州市花劇樓亳州市博物館蔵

曹操の襲撃を受け、逃げ遅れた劉備の子・劉禪を懐に抱いて疾駆する。『三国志演義』屈指の名場面で趙雲最大の見せ場。

蜀の劉備の祖、中山靖王劉勝の富と権力

一級文物

豹⑤

青銅、金銀象嵌、メノウ 前漢時代、前2世紀
1968年、河北省保定市中山靖王劉勝夫婦墓出土
河北博物院蔵



蜀の劉備は、前漢6代皇帝の景帝の子である中山靖王劉勝を始祖とした。1968年、この劉勝夫婦の墓が河北省で発掘された。豪華な出土品は皇室劉氏の圧倒的な富と権力を象徴する。

魏の曹操の祖、曹氏一族の墓 その華麗なる系譜

一級文物

玉豚⑥

玉 後漢時代、2世紀
1974年~1977年、安徽省亳州市董園村1号墓出土
亳州市博物館蔵



魏の曹操の祖父・曹騰をはじめ後漢の曹氏一族の墓群から出土。玉豚は高貴な人物の埋葬に際し、その手に握らせたもの。貴族の身分であることを示す銀糸で綴じた玉衣も出土し、曹氏一族が後漢王朝のもと栄達を極めたことを示す。

呉の孫権を支えた海洋ネットワーク

貨客船⑦

土器 後漢~三国時代(呉)、3世紀
2010年、広西壮族自治区貴港市梁君洞14号墓出土
広西文物保護与考古研究所蔵

漢から三国時代にかけて、呉の沿岸部の墓では船形模型が集中的に出土する。対外交易がさかんだった海洋国家・呉ならではの文物である。



呉

呉の名将、朱然の墓での発見が物語る "リアル"

童子凶盤⑧

木、漆 三国時代(呉)、3世紀
1984年、安徽省馬鞍山市朱然墓出土
三国朱然家族墓地博物館蔵

呉の名将・朱然の墓から出土。棍棒を手に立ち回る童子を描く。底面に「蜀郡堅牢」とあり、蜀の地の工房で作られたことがわかる。朱然は樊城の戦いで関羽を捕らえたことでも有名。



呉

せめぎ合う三国! ——



曹操が寵愛した武将、曹休 その名が印章に...

「曹休」印⑨

青銅 三国時代(魏)、3世紀
2009年、河南省洛陽市曹休墓出土
洛陽市文物考古研究院蔵

魏の將軍・曹休は曹操の甥にあたる。十代の頃に父と死別したが、曹操は「我が家の千里の駒である」と言って、我が子同然に可愛がった。『三国志』の登場人物の名を刻んだ印章はこの「曹休」印が唯一の出土例。

当時の“リアル”な戦乱を物語る武器



撒菱⑩

青銅 後漢~三国時代、3世紀 陕西省勉県定軍山出土 勉県博物館蔵

交通の要衝・漢中をめぐる定軍山の戦い。侵攻ルートに仕掛けたのは曹操軍か、劉備軍か?

蛇矛⑪

青銅、鍍錫 石寨山文化期、前2世紀
1956年、雲南省昆明市石寨山3号墓出土
雲南省博物館蔵

張飛が生きた時代の「蛇矛」はまだ発見されていない。しかし本品のように紀元前2世紀頃の実例は存在し、文献記録では4世紀頃の蛇矛の記述がある。



蜀

鈎鑊⑫

鉄 後漢時代~三国時代(蜀)、3世紀
1998年、四川省綿陽市白虎嘴崖墓出土
綿陽博物館蔵

先端が鈎状で、中央が小型の盾になった歩兵の防具。もう片方の手に刀を持って戦った。

黄巾の乱の スローガンを刻む

「蒼天」磚⑬

土器 後漢時代、2世紀
1974~1977年、安徽省亳州市元宝坑1号墓出土
中国国家博物館蔵

「蒼天乃死(蒼天すなわち死す)」を含む3行の銘文を刻む。184年、後漢末期の混乱のなかで発生した黄巾の乱の合言葉「蒼天すでに死す、黄天まさにたつべし」を彷彿とさせる。

黄巾の乱! 横暴を極める董卓! 漢王朝の行く末は――

儀仗俑⑭

青銅 後漢時代、2~3世紀
1969年、甘肅省武威市雷台墓出土
甘肅省博物館蔵

騎兵や車馬などからなる儀仗行列。墓主は、後漢末期に漢王朝を揺るがした董卓配下の有力武将であった可能性もある。



埋葬者はあの董卓ゆかりの人物か?

第2章 漢王朝の光と影

漢王朝は天下に比類なき巨大帝国へと成長し、全国各地に統治の網を張りめぐらせた。しかし2世紀末には王朝内部の政争が表面化し、皇帝は求心力を失っていった。地方では道教教団が台頭して新時代の幕開けを喧伝する黄巾の乱がおこり、漢の都は董卓によって破壊されるなど、社会全体が混乱を深めていった。

第1章 曹操・劉備・孫権 英傑たちのルーツ

魏の基盤を作った曹操は、父祖伝来の勢力基盤を引き継ぎつつ漢王朝の中枢で実権を握り、動乱の時代に覇をとこなした。蜀の劉備は漢皇室の血統を自認し、漢王朝の復興を掲げた。呉の孫権は海洋ネットワークを駆使して勢力を伸ばすなど、独自の路線を歩んだ。後世に英雄とも称される彼らのルーツを、選び抜かれた文物から読み解いてみよう。

第3章 魏・蜀・呉 三国の鼎立

魏、蜀、呉の鼎立は、後漢時代の末期に形づくられ、それぞれの境界で争いはとくに熾烈を極めた。220年、曹操が没して息子の曹丕(文帝)が後漢から皇位を奪うと、蜀の劉備と呉の孫権はこれに反発し、互いに正統性を主張した。ここでは、後漢時代から三国時代の武器や著名な合戦を取り上げ、その時代の空気を感ずる。

